



2015. 6. 30発行

発行人
宮城県築館高等学校
PTA調査広報部会

No. 27



第56回

定期戦を終えて 生徒会長 白鳥 岳

我々築高生は、全力を尽くして戦った結果、古川高校に勝利することができなかった。我々応援団は、日頃から懸命に活動していた部活動を見て負ける気がなかった上に、二連覇を達成できなかったことには悔しさを感じずにはいられない。しかし、この敗戦は我々にとって決して無駄ではなかったはずだ。全校で熱心に取り組んだ応援。開会式での校歌披露は古川高校に劣ってはいなかった。築高生のまとまり、学校で団結できたことを私は誇りに思う。我々は、この悔いをここで終わらせてはいけない。今後の生活全てにぶつけて成長し、目標を達成していくべきである。築高生の活躍を誉め称えようではないか。

3年生諸君、最後の定期戦を勝って終われなかったこと、本当に申し訳なかった。しかし、皆と共に最後まで戦えたことを私はとても喜ばしく思う。共に全力を尽くしてくれてありがとう。

1・2年生諸君、今年の悔いを晴らすのは諸君らだ。我々3年が成し遂げられなかった勝利を来年は必ず手にしてほしい。諸君らならできるはずだ。来年度の定期戦で、古川の地に臥薪嘗胆の歌声が轟くことを心より願っている。

次へと進むために 応援団長 増戸 涼

まず、今年度も半世紀以上続くこの伝統ある一戦を開催できたことを嬉しく思う。また、この定期戦を開催するにあたってご尽力頂いた全ての関係者の皆様に深く感謝申し上げる。

大敗。とても悔しいが古高に力の差をみせつけられてしまった。だが、築高生全員が強敵古高に真正面から向かってくれたことにとっても感動した。また、何百人もの生徒数の差を感じさせない校歌を歌うことができたことに誇りを持ちたい。各々の努力が今回は実らなかったが、この悔しさを忘れず次のステージへと進むため日々精進して欲しい。

今年も大成功で終わった定期戦だが、この一戦が来年も再来年も続いていくことを願っている。最後になるが生徒諸君、今までついてきてくれてありがとう。